

## デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生関連) 効果検証

事業名	「本物の魅力」が見つかる表丹沢～「都心から近い山岳・里山アクティビティの聖地」に向けた表丹沢ツーリズムの確立～ 【地方創生推進タイプ】	事業開始	令和3年度	事業終了	令和4年度
全体概要 (目的)	本市の誇る表丹沢の資源を最大限に活用し、市民には愛着や誇りの醸成、市外からは来訪増などを促す関係人口の構築を行うためのブランディング事業とともに、事業終了後に取組みが自走するための基盤の整備を実施する。具体的には、地域資源を活用した表丹沢ツーリズムブランドの確立、表丹沢ツーリズムにおける情報発信プラットフォームの構築、表丹沢ツーリズムの民間事業者主導への移行に向けた取組を行う。				

### <事業実施状況>

年度	実施内容	交付金 実績額(円)	重要業績評価指標(KPI)					事業評価		外部有識者の評価	
			指標	単位	目標値	実績値	達成率	(①非常に有効であった ②相当程度有効であった ③効果があった ④効果がなかった)		(①有効であった ②有効ではなかった)	
R3年度	<p>○表丹沢を「都心から近い山岳・里山アクティビティの聖地」としてブランド化する取組を進めるため、表丹沢の略称とともに、「面白い」「楽しい」の語感も盛り込んだロゴマーク『OMOTAN』を開発した。</p> <p>○また、表丹沢一带にある様々な分野の資源の魅力・特色を生かすとともに、新たなターゲットとするファミリー層や女性グループなどを想定した体験コンテンツを組み合わせたモニターツアーを2回実施(1月・2月)し、ヒアリングやアンケートにより、食や施設、お土産をはじめとした表丹沢に求めていることなどの受容性調査を行った。</p> <p>○さらに、表丹沢総合ホームページの構築に向けて、仕様や構成要素の確認、サイトマップの作成のほか、コンテンツの収集やスポット、遊び・体験等各ページのデザインなどの検討を進めた。</p>	3,847,800	地域資源を活用した検証調査において、表丹沢ツーリズムに対する期待値の割合	%	50	68	136%	①非常に有効であった	当初計画どおり、表丹沢ロゴマーク「OMOTAN」の開発、受容性調査及び情報プラットフォームの構築を進めることができた。また、表丹沢ツーリズムに対する期待値も目標値を上回っており、ブランド化に向けた一定の事業効果を発揮している。	①有効であった	秦野市が誇る地域資源である表丹沢のブランディングに向け、一步を踏み出したことについて有効であったと評価します。ただし、「OMOTAN」ブランドを定着させるため、民間主導による経済性ある取組みへ移行させること、また、秦野市としてブランドメッセージの統一性を持たせるため、既存の「秦野名水」等との効果的な連携が望まれます。さらに、より多くの住民にとって、表丹沢を身近に感じ、ふれあうことで、秦野に対する誇りや愛着の醸成につながるよう、表丹沢総合ホームページを活用した情報発信の工夫や、民間との連携等を期待します。
			民間主導のイベントにおけるコラボレーションする民間事業者数	者	0	0	-				
R4年度	<p>○表丹沢の認知度向上と新たなファン獲得のため、令和4年8月に公開した「OMOTAN」総合ホームページと公式Instagramにより、四季折々の魅力やイベント情報などを発信した。また、「OMOTAN」ロゴマークを使用したノベルティやグッズの作成、ロゴマークの民間事業者等の使用促進などにより、市内外への周知に努めた。</p> <p>○さらに、令和5年4月からの表丹沢の中心的施設である「表丹沢野外活動センター」の指定管理者中心の推進体制への移行に向けて、市民・活動団体、施設運営者、民間事業者、行政等で組織する「表丹沢ツーリズム連絡調整会議準備会」を設置し、地域資源を生かしたツーリズムの構築や、イベント・ツアーの効果的な広報宣伝と集客方法などについて検討し、事業計画を策定するとともに、民間事業者主導によるイベントを実施した。</p>	6,490,000	地域資源を活用した検証調査において、表丹沢ツーリズムに対する期待値の割合	%	60	95	158%	①非常に有効であった	当初計画どおり、情報プラットフォームを活用した表丹沢ファンの獲得、表丹沢ツーリズムの構築に向けた推進体制の検討及び民間事業者主導によるイベントの実施等を進めることができた。また、「表丹沢ツーリズムに対する期待値」及び「民間主導のイベントにおけるコラボレーションする民間事業者数」のいずれも目標値を上回っており、ツーリズムの事業化に向けた一定の効果を発揮している。	①有効であった	表丹沢のブランディングのため、様々な地域資源をつなげるとともに、継続性を持った事業が展開されており、有効であったと評価します。交付金事業終了後も、関係人口の創出等の目的達成に向けて、「OMOTAN」ブランドが定着するよう、取組みの継続と、戦略的な情報発信を期待します。さらに、中長期的な事業の効果を捉え、より効果的な施策の展開につなげるため、ロジックモデルの構築や、より本質的なアウトカム指標の設定が望まれます。
			民間主導のイベントにおけるコラボレーションする民間事業者数	者	3	6	200%				